

2021年度 自己評価結果表

釧路キリスト教学園 釧路めぐみ幼稚園

1、 本園の教育目標

神様の愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。

神様が愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神様のかたちに造られた私たちの中には神様の限りない愛がこめられています。その神様の愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。

また、互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神様の愛のもとで先生や友達と喜びを共に体験し、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にする、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

4つのめあて

- ① たくましい心身と生きる力を培う。
- ② ひとりひとりを大切にし自主的な子どもを育む。
- ③ 恵まれた自然環境を通して、創造性と感性を豊かにする。
- ④ 神様の愛に気づき、共に生きる喜びを体験する。

2、 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ①新年度は、新任教師も加わることから、教育目標・教育課程に関する研修に重点を置き、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた、指導計画の充実を図る。
- ②充実した指導計画を作成し、それに沿って先を見通した環境構成、遊びや幼児が主体的に関わりたくなるような活動展開を提供する。
- ③特別支援児（含発達遅れ）への対応を充実させるために、その体制を整え、個々の指導計画について教職員の共通理解、情報交換を密にする。又、保護者や関係機関との連携を繋げていく。
- ④自己評価に対する評価・レベルが個々に異なるため、数値に差がある。自己評価は毎学期行っているが、自己評価の捉え方を学び、正しく評価が出来るようにする。

3、 自己評価に関して

教師会で学期ごとに行い、それぞれの評価について互いに照らし合わせて話し合う。その中で次の課題や取り組みを確認して次の学期に向く。そういった作業は時間がかかるが、新任教師や経験のある教師が自分の評価を客観的に見ることが出来、又、気づき合うことで新しい発見を得ることが出来ている。そのため、自己評価ではあるが、園としての総評価ということが出来る。

◎園の教育目標や指導計画

- ・園の教育課程は新任も理解を深めながら、指導計画を立てているが、それを具体的に月案、週案などの作成に下ろしていくには、まだまだ研修と指導が必要である。
- ・毎週1回指導計画、又、反省・評価を園長・主幹が目を通しており、教師達の日々の努力は評価できる。ただ、その努力が次の保育に活かしているかが見えてこない。

◎環境構成

- ・今年度の年間テーマ「北海道」を基に、園内装飾掲示など工夫して行っており、子ども達も敏感に反応している。自分たちの住んでいる釧路はもちろん北海道への関心が高まった。
- ・子ども達が快適に園生活を送ることが出来るように、各保育室やプレイルームにエアコン、廊下に暖房を設置した結果、釧路には珍しい暑さの中でも快適に過ごせている。
- ・園庭の一部分を舗装し直したり、駐車場に砂利を入れるなど、外回りの整備をする。

◎保健、安全管理

- ・コロナ感染症予防のため、検温、換気、消毒、手洗いに力を入れ、子どもの体調管理に注意してきた。又、すべての教職員には、抗原検査キットを購入して配布し、感染が広まらないように努めてきた。
- ・避難訓練は毎月行っているが、危機管理マニュアルの共有作業に欠けていた。

◎地域開放

- ・コロナのために「にこにこクラブ」も回数を減らさざるを得なかった。又、例年行っている花の日訪問も出かけていくことが出来ず、健康診断で来て下さったドクター（内科・歯科）に花束を渡すのみになってしまった。小学校との交流も中止となり、残念である。ただ、その中であって、食育講座や読み聞かせなど地域の人々が来園して下さり、いつもと異なる経験をする機会をもつことができた。

◎特別支援教育

- ・支援が必要な子どもが増えてきたことから、関係機関と連携を取り、関係機関と保護者との面談（希望者のみ）を計画したり、関係機関のスタッフが来園して園での様子を視たりした。その結果、教職員の療育や支援方法に関する知識や意識が高まった。
- ・特別支援教育のための園内研修を実施し、又、外部の研修に全教員が参加するなど特別支援のための支援体制作りに取り組むことができてきた。

◎研修（資質向上の取組み）

- ・コロナにより、オンライン研修が増え、参加しやすい反面、全員での参加が難しく、年間を通して研修への参加が少なくなってしまった。
- ・園内研修は、定期的に教師会で行う計画を立てていたが、教師の人で不足があり、参加者が2～3人という状況で出来ない時が多かった。

◎組織運営

- ・正教師を募集するもなかなか得られず、園長、主幹も保育に入らねばならなかったことから、全体への指導に欠けるところがあった。しかし、そういう中であって全教職員がシフトをやりくりしながら、日々の打ち合わせは欠かさず、又、保育の質を落とさないように努力を重ねてきた。
- ・財務運営は良好で、教職員の努力に報いて、処遇改善をすることが出来た。

4、まとめ

コロナのため、今年度も諸行事の中止、臨時休園など行わざるを得なかったが、子ども達の園生活に欠かせないものは最優先して、工夫しながら日々の保育を行ってきた。保護者の来園、参観も限りがあったため、クラスだより、連絡ノート、電話、DVDなどで子どもの園での様子を知らせるように心がけた。

又、今まで電話で行っていた緊急連絡を連絡アプリ「スクリレ」を使用し、休日の園への連絡を園の携帯を使用することで、情報を早く得ることが出来ることになった。

そして何より釧路キリスト教学園に湖畔幼稚園が設置者変更し、2園となったことは大きい。

運動会時、湖畔幼稚園は新園舎建替えの最中で園庭が使用できないため、釧路めぐみ幼稚園の園庭を使用して運動会練習を行い、園児達の交流が出来た。

5、次年度の課題

新年度は新任教師が5名増えることで、人手不足が緩和されるかと思うが、その新任教師を指導し、成長へとつなげ、園全体が活気のある前向きな姿勢で課題に取り組みたい。そのためにも共に祈ることは欠かせない。

- ①研修の時間を十分に持ち、先輩教師が新任教師に釧路めぐみ幼稚園の教育目標や教育方針をしっかりと伝える。特に聖書を通して示されている神さまの愛に気づき、共に喜び合えるように祈りを大切にする。
- ②教師会や打ち合わせは、コミュニケーションを大事にし、充実させる。
- ③教育課程に沿って、指導計画を作成し、月案・週案などのレベルアップを図り、プロの保育者としての練達に励む。
- ④支援の必要な子ども達への対応を、関係機関のアドバイスをもらいながら、新しいことへのチャレンジを積極的に行う。
- ⑤全教職員が元気な挨拶、明るい笑顔、丁寧な日本語を心掛ける。
- ⑥煩雑な事務作業を簡素化するために対応を考えて実行する。
- ⑦防犯や危機管理に関する研修を行うために、研修計画を立て、ケーススタディやディスカッションを行う。実際に想定して訓練の時を持つ。

めぐみ幼稚園では、保護者・地域住民・評議委員により構成される、学校関係者評価委員会を設置しています。

学校関係者評価の実施においては、評価に先立ち、保育参観、意見交換などにより園の状況について共通理解を深めています。

本年度の自己評価の結果、およびそれを踏まえた今度の改善策についての評価が学校関係者評価委員会により実施されました。

学校関係者評価委員会2021年度評価

(1) 公開保育を通して

コロナ対応の中、工夫としっかりした指導計画がなされ、短期のみならず、長期的にも子ども達に気付きを促す要素が

2) 自己評価について

- ① 今年度途中退職者が4名も出て、教師不足の中で全体的に自己評価のレベルが下がった状況ではあるが、教職員・パートが互いに補い合い、情報交換・共通理解を持ち、保育の質を落とさないように努めてきた様子が伺える。
- ② 人員不足ということから、教職員みんなが揃うことが難しい。
- ③ 新型コロナウイルス感染予防のため、休園が続いたり、行事の中止・工夫したりする中で、子ども達の活動や体験が狭まらないように柔軟に指導計画を立て、新しい試みをしたり、今まで出来なかったことに取り組んだりして、子ども達の園生活の充実を図ったことは次に繋がるものである。
- ④ コロナの関係で、ほとんど地域交流・小学校との交流が出来なかったのは残念である。